

# X'C REPORT

FOR 2000 SEASON

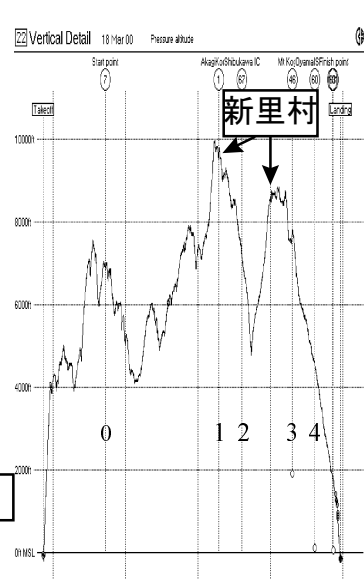
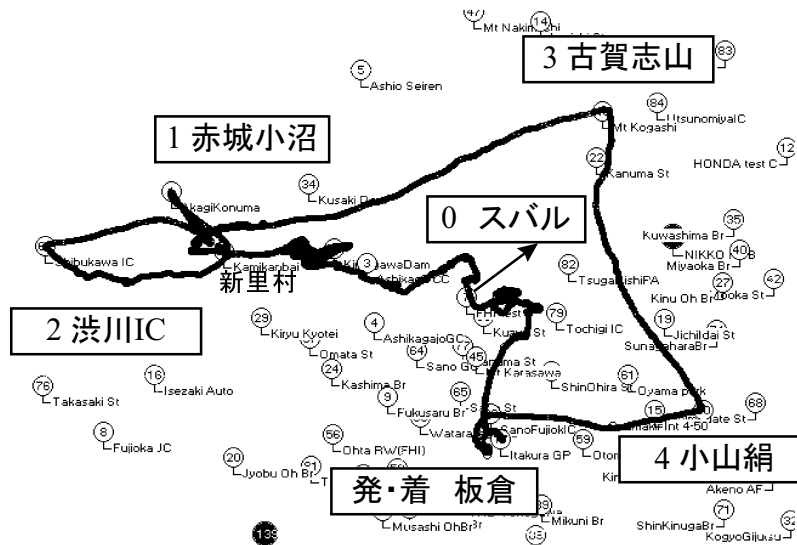
1.飛行年月日		2000年3月18日		2.パイロット氏名		嶋田 和人 SHIMADA, Kazuhito					
3.グライダー形式		Discus b '22' JA22KF		発37 kg/m <sup>2</sup>		4.クラス		STD			
5.連絡先		E-Mail: shimada.kazuhito@nasda.go.jp				6.証人					
7.離陸		12 : 50		8.飛行		9.エント		3 h + 11 min		10.平均	
着陸		16 : 58		距離		タイム		13:37 16:58		速度	
時間		4 + 08		190 km		3 h + 11 min		13:37 16:58		60	
11.最高高度		3,077 m		12.出発高度		2,138 m		13.使用した		コンバージョン	
		MSL		離脱1200m		リフト		サーマル		ウェーブ	
14.飛行経路		スバルテストコース(7) > 赤城小沼(1) > 渋川インター (67) > 古賀志山(46) > 小山絹(60) > 板倉(17)									
出発地:		板倉滑空場								1:1,000,000	
着陸地:		板倉滑空場								その他	

西高東低の日。視程も良く朝から好条件が予想された。佐野の北に雲ができ、定番の葛生4000フィートの曳航にてDiscus bt/BT、Discus/MM、Discus/22、LS-4/O1が赤城に向けて発航。曳航高度をけちった機体は雲に取りつかなかったとのこと。

先行するBTの7000-8000ftへ到達できないうちに葛生の雲は東から崩れはじめ、仕方なく赤城を目指し出発する。が、桐生川ダム付近4,000ftでもがくはめに。そのうち新里村に赤城を回った風のコンバージョン?で大きな積雲が出来、これで10,000ft上がる。赤城の風上に雲はなく、凍った小沼TPを沈下中で回って雲に戻る(初めて赤城に行った)。高度があるから選手権タスクエリアの端っこのTP渋川ICを回るが前橋・渋川は大きな沈下帯。榛名山の雲は弱っちそうに見えたので新里村の雲に戻るが5,000まで落ちた。

東からブルーエリアが拡大してきている。MMは日光市から華厳の滝を見上げているとか、O1は小山絹上流に降りるとか、心強い無線が入る。-10℃で雲の日陰でとても寒い。日和ってさっさと帰ることにする。20kmくらいは雲道の下だったが、古賀志山西からの帰り道100kmは全くブルー。回るものがないのでそのまま滑空で帰投。急速に悪化した氏家方面に行かなくてラッキーだった午後だった。私にはこの変化の予兆は読めなかった。

Detail View 18 Mar 00 06:22-16:58



G P S	有 タイプ	Cambridge 20
データ	データ名	03HC2221.cai
	無	

DATE RECEIVED FILE No.